

「ハンバーグ業界の2020年度低炭素社会実行計画の評価・検証(2019年度実績)について」

国が計画する「地球温暖化対策計画」において、産業界として対策の中心的役割を果たす「低炭素社会実行計画」については、政府は関係審議会等による定期的に評価・検証することとされています。一般社団法人日本ハンバーグ・ハンバーガー協会は、2007年度に「ハンバーグ・ハンバーガー業界の環境自主行動計画」を策定し、その実施状況等については、毎年調査を行い公表することとしています。このうち、ハンバーガー業界については、(一社)日本フードサービス協会が策定する「外食業界の環境自主行動計画」に重複参加していたため除き、2008年度からは「ハンバーグ業界の環境自主行動計画」として実施し、公表しています。なお、「環境自主行動計画(低炭素社会実行計画)フォローアップ調査」という表記でしたが、2016年度より「低炭素社会実行計画 評価・検証(〇〇〇年度実績)について」という表記になりました。

この度、2020年度(2019年度実績)の取りまとめを行いましたので報告いたします。

## 1. 低炭素社会実行計画における目標

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」等を遵守するとともに、ハンバーグ類生産工場においてエネルギー消費量の削減及びエネルギーの効率的利用に取組み、2013年度を基準年度とし、エネルギー消費原単位を2020年度までに▲5%改善、2030年度まで年平均▲1%改善する。

※2014年までの報告は、2020年度までの目標指標を「CO<sub>2</sub>排出原単位」としていたが、2015年報告分より2020年度までの目標指標を「エネルギー消費原単位」へと変更している。

## 2. 目標水準達成のための取組み (企業からの報告より)

温暖化対策(二酸化炭素排出抑制対策)

【2019年度の取組実績】(各社の取組の具体的事例)

- ・製造ボイラー給水タンクの保温
- ・バッチ式フリーザーの設置。(大型設備→小型設備)
- ・殺菌設備蒸気使用ロスの改善。(仕切り板の設置)
- ・冷凍機インバーター化。
- ・重油からLNGへの燃料転換。
- ・ボイラーの更新、高効率型を選択導入。
- ・製造ラインにおいて高効率の機器、設備に更新。
- ・社会的に証明のLED化が概ね完了。
- ・空調設備の更新による省エネルギー化
- ・改装における給排気装置の変更による省エネルギー化。

### 【2020年度以降の取組み予定】

(今後の対策の実施見通しと想定される不確定要素、各社の取組予定)

- ・環境への投資は、バランスを考慮し続けていく方針だが、売り上の減少など不確定要素がある。
- ・設備の老朽化が、各工場進んでいて、優先順位など考慮される。
- ・排水油脂類分離による廃油ボイラー活用において、燃料の使用量削減に取り組む。
- ・冷凍整備等に更新(自然冷媒の促進)。
- ・各所空調設備の効率運転、冷凍・冷蔵庫温度設定の見直し実施。
- ・大型設備使用ラインの纏め製造計画。
- ・環境に配慮した企業活動の実践。ISO14000、22000 の継続
- ・食品廃棄率削減、フードロス削減、温室効果ガス発生量削減。

### 3. エネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の実績

年度 区分	2013 基準年度	2015	2016	2017	2018	2019
①ハンバーグ類生産量 (t)	119,290	110,911	117,509	113,226	112,933	109,260
②エネルギー消費量 (原油換算 kL)	49,430	49,344	50,544	49,820	50,431	49,417
エネルギー消費原単位 kL/t	0.414	0.445	0.429	0.440	0.447	0.452
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> ) (注1)	109,895	105,198	105,419	101,860	98,514	94,224
CO <sub>2</sub> 排出原単位 (t-CO <sub>2</sub> /t) (注2)	<u>0.921</u>	<u>0.948</u>	<u>0.897</u>	<u>0.900</u>	<u>0.872</u>	<u>0.862</u>

- (注) 1.計画対象企業は、既に他団体・組合の計画に参加している会員企業を除く会員企業とした。  
2.電力に係るクレジット調整導入のため、CO<sub>2</sub>排出量および CO<sub>2</sub>排出原単位は、クレジット調整後の数値とした。

### 4. 2019年度実績概要

#### 【目標に対する実績】

年度	目標指標	基準年度	目標水準 ①	2019年度実績 (基準年度比) ②	2019年度実績 (目標水準比) ③ / ①	2019年度実績 (2018年度比)
2020	エネルギー消費原単位	2013	▲5%	+9%	—	1%
2030	エネルギー消費原単位	2013	年平均 ▲1%	年平均 +1.5%	—	空欄

① 2020 年度目標水準と 2019 年実績との比較及び評価、今後の改善見通し等

2013 年度を基準として、エネルギー消費原単位を 2020 年度までに▲5%改善することを目標としている。2014 年以降のエネルギー消費量の対基準年度比は、100%前後を維持する状況、CO<sub>2</sub> 排出量については着実に削減されているが、生産量の減少により、目標指標とするエネルギー消費原単位の数値目標の達成は難しい。今年度の対基準年度比は+9%となった。

② 2030 年度目標水準と 2019年実績との比較及び評価、今後の改善見通し等

2013 年度を基準として、エネルギー消費原単位を 2030 年度までに年平均▲1%改善することを目標としているが、①同様、対基準年比年平均+1.5%となり、目標達成は難しい現状となっている。

【エネルギー消費量・CO<sub>2</sub> 排出量実績】

	2019 年度実績	基準年度比	2018 年度比
エネルギー消費量	49,417kl	±0%	▲2%
CO <sub>2</sub> 排出量	94,224t-CO <sub>2</sub>	▲14%	▲4%

① 2018 年度からの増減要因

2000 年以降継続的に推進している省エネ設備の導入、製造工程の改善、効率化等によるエネルギー節減、または重油・灯油等から電力・ガスへの熱源転換、新エネルギー導入等の CO<sub>2</sub> 輩出抑制対策の成果によりエネルギー消費量は前年並み・CO<sub>2</sub> 排出量は減少しているが、生産量の減少により、エネルギー消費原単位は増加の傾向にある。CO<sub>2</sub> 排出量原単位は、▲1%となった。

企業からの報告より

② エネルギー消費量 2018 年度からの増減要因

減少要因 ・空調設備の更新による省エネルギー化。  
・改装における給排気装置の変更による省エネルギー化。

③ CO<sub>2</sub> 排出量 2018 年度からの増減要因

減少要因 ・重油からLNG化への燃料転換。  
・ボイラーの更新、高効率型を導入。

5. 2020 年度の見通し

生産する商品は、年々多様化の傾向にあり、生産性や効率性を求めていくしかないが、温度管理上、冷房などは必要不可欠なものであり、節電に馴染まないものである上、アレルギー対応商品などの生産については、エネルギー効率が悪くなる傾向があるなど限界がある。

このような厳しい状況にはあるが、節電対策の徹底は今後も継続し、使用エネルギーの削減と効率的利用の推進を一層進めていく。